

課題に対する対応について

1. リスクシナリオ分析

目的：前年度の検討においては、複数のブロック敷設パターン、ホームドアの有無等が混在することにより、利用者の誤認識等が生じ、事故につながるおそれがありうることに十分留意が必要ということが課題として残った。この解決のために、起こりうる危険に至るシナリオについてブレインストーミングによる整理・分析を行い、誤認識等を起こさないブロックの敷設方法を検討する。

内容：

（シナリオの設定）

①ホームの形状

・島式ホーム（単式ホームと比べ、混在等による誤認識の危険性が高いと想定できるため）

②島式混在の場合のホームドアの有無形式

- ・片側中開口ホームドア、片側ホームドア・柵なし
- ・片側大開口ホーム柵、片側ホームドア・柵なし の場合

③敷設パターンの差異

- ・ホームドア側が開口部 2 枚敷き（内方線付）、柵なし側は内方線警告ブロックの場合
- ・ホームドア側が開口部 1 枚敷き（内方線付）、柵なし側は内方線警告ブロックの場合
- ・線状ブロックの有無を考慮

④ホームの構造上の状況

- ・狭小ホーム、柱や階段、ベンチなどに遮られる場合

⑤人の状況

- ・人にぶつかる、待ち列を回避する、声を掛けられた場合

以上よりシナリオを用意し、起こりうるリスクの想定と誤認識を起こさないブロックの敷設方法を検討する。

シナリオの条件			
ホームドア	敷設パターン	状況	起こりうるリスク
A側 中開口ホームドア B側 ドア・柵なし	A：2枚敷き＋線状ブロック B：警告ブロック内方線付	無、④、⑤	
	A：2枚敷き B：警告ブロック内方線付	無、④、⑤	
A側 大開口ホーム柵 B側 ドア・柵なし	A：2枚敷き＋線状ブロック B：警告ブロック内方線付	無、④、⑤	
	A：2枚敷き B：警告ブロック内方線付	無、④、⑤	
	A：1枚敷き＋線状ブロック B：警告ブロック内方線付	無、④、⑤	
	A：1枚敷き B：警告ブロック内方線付	無、④、⑤	

日時：2017年 7月31日（月）19時～21時

場所：JTB総合研究所 会議室にて

参加者：視覚障害者団体等代表者、有識者WGメンバー、事務局

会場設定：上記敷設パターンをサンプル的に敷設して、状況を説明しながら実施

※結果については、とりまとめ後別途共有することとする

2. 鉄道事業者ヒアリング

目的：前年度の検討においては、狭小ホームの幅員等、鉄道事業者が現実的に対応できるかの考慮が必要と提示された。実際にホームドアが設置されることが予定されている、もしくは将来的に設置される可能性の高いホーム上において、懸念される事項、条件等を鉄道事業者を確認し、実現性を検討する資料とする。

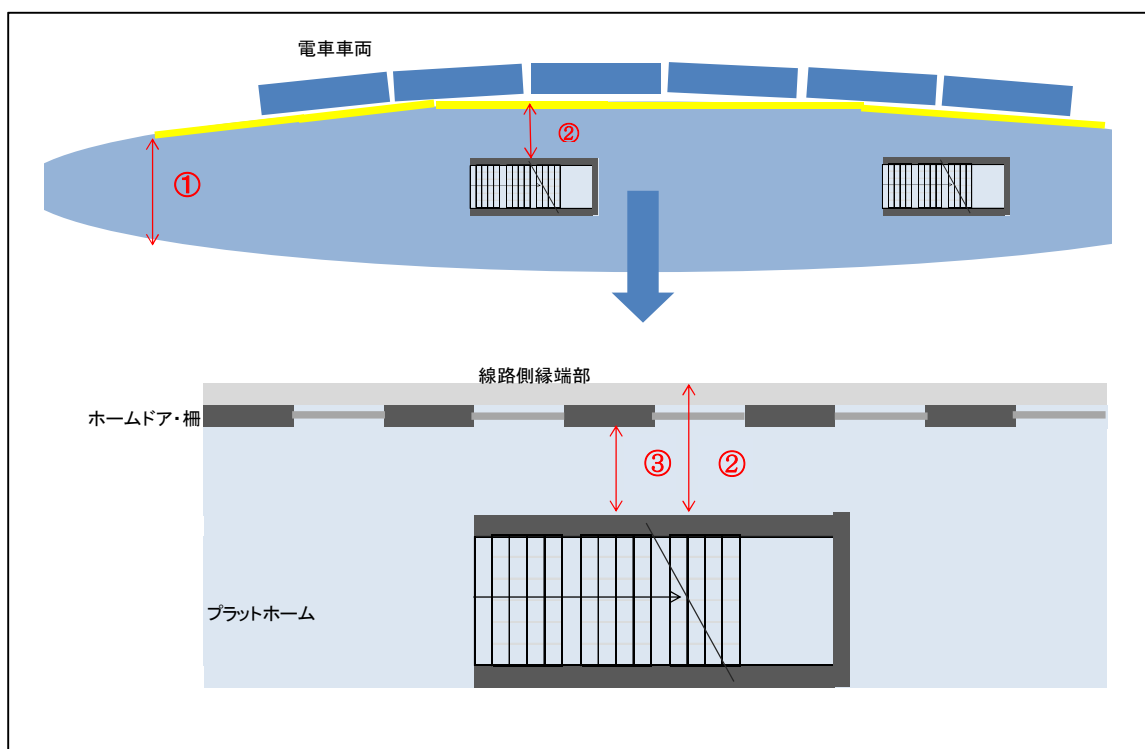
手法：鉄道事業者委員にヒアリングを行う

時期：8月中

内容：敷設の実現可能性を考えるにあたり、考慮すべき点を聞き取り

- (1) ブロックを敷設する上で、実現性に影響し、考慮して欲しい条件及び制約等について
- (2) 実際の駅ホームの寸法について懸念される点について
 - ① ホーム縁端から反対側の縁端または壁までで最も狭い部分の幅員
 - ② ホーム縁端から諸建築物等までで最も狭い部分の幅員
 - ③ ホームドア等がある場合、ホームドア等から諸建築物等までで最も狭い部分の幅員
 - ④ ホームドア等があり線状ブロックがない場合、線状ブロックを敷設しない理由

等



3. 実証実験（詳細は資料4参照）

目的： 前回の実験においては、ブロックの敷設方法の方向性は示されたものの、前提条件や実験方法、被験者の属性等において課題が残された。この点を十分に考慮したうえで、エビデンスとして十分な人数、精度での実験を行い、最終的な敷設方法を明らかにすることを目的とする。

内容：

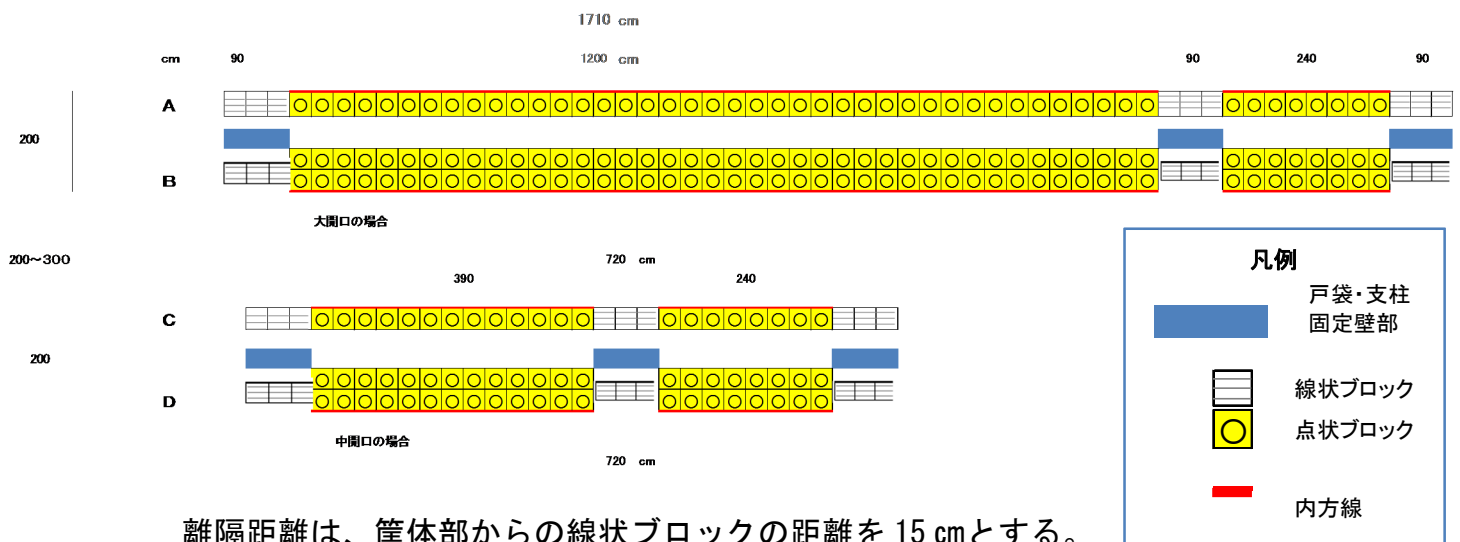
（1）検証するホームドアの形式

- 1）大開口：12mで実施、筐体部は3か所の仮設（開口部2か所）
- 2）中開口：4mで実施、筐体部は3か所の仮設（開口部2か所）

（2）敷設パターン

- 1）開口部の点状ブロック1枚敷き（敷設奥行き30cm）
- 2）開口部の点状ブロック2枚敷き（敷設奥行き60cm）

※2枚敷きの際、線状ブロックのホーム内方側の突出しに関しては、40cm突出しの案と25cmの案が存在したが、両者の一対比較の結果25cmの評価が高かったことから、25cmのパターンで実施することとする。



（3）確認項目

- ・1枚敷きと2枚敷きのどちらが適切か
- ・大開口と中開口での違いがあるのか

（4）評価方法

白杖の使用、歩行パターンは通常通りとし、「辿りづらいホーム柵」の場合の歩き方として評価する。

- ①長軸方向に歩いて開口部もしくは筐体部を見つけやすいか（1枚と2枚で差があるか）
- ②長軸方向を歩行する上で方向を見失う不安があるか（1枚と2枚の違い、開口による違い）

※その他、リスクシナリオ分析、鉄道事業者ヒアリング等の結果において、確認が必要な項目がある場合は適宜検証項目の追加を検討する。